

【決議】川内原発再稼働阻止！ 福島切り捨て許すな！ 「3・11反原発福島行動'15」に全国から集まろう！

全国学友は、3・11反原発福島行動に大結集しよう！ 2011年3月11日の東京電力・福島第一原発事故から間もなく4年。これを目の前にして、福島への帰還強制や原発再稼働策動が激化しています。そうした攻撃に対して福島では昨年、3・11だけでなく動労水戸のストライキやJR郡山工場での9・11闘争などの反撃がされました。これに安倍政権は大きな打撃を受けています。原発事故をなかったことにする福島圧殺攻撃を、全国学生の団結でうち破ろう！

◆安倍政権による川内原発の再稼働を絶対に許さない！

九州電力・川内原発の1・2号機の再稼働が今春にも狙われています(昨年9月に原子力規制委員会の安全審査に国内で最初に「合格」)。集団的自衛権行使関連法を中心とする戦争国家化攻撃が進む中、安倍政権は核武装のための再稼働攻撃を推し進め、そればかりか原発新規建設、さらには老朽化した原発の建て替えまで行おうとしています。

そして、再稼働を正当化するために、福島への帰還強制をはじめ、「フクシマの怒り」を圧殺する攻撃に踏み込んできています。昨年の「JR常磐線の竜田駅までの延伸」や「国道6号線開通」、そして今年3月の「常磐自動車道前倒し全面開通」は、原発事故への福島県民の怒りの声を踏みにじるものです。「復興のため」と盛んに言われていますが、常磐線は乗客がほとんどいない状態での運行が続いており、国道6号線は駐停車や車窓開放を禁止しての開通です。「復興」とは大資本家にとっての「復興」のことです。避難先から元の地域へ帰ろうと思っいる住民はほとんどいません。放射線量が強く危険な場所であることを、みな分かっているからです。補償金を打ち切られても戻らないということは、安倍政権との意識的な対決の始まりです。帰還強制攻撃を粉碎し、川内原発および全国の原発の再稼働を阻止しよう。

◆「福島圧殺」攻撃に怒りの声を！

公安調査庁が発行する『内外情勢の回顧と展望』で、ふくしま共同診療所が「過激派の拠点施設」として取り上げられました。「内部被曝による健康被害」を隠蔽する福島県立医大と真っ向から対決する唯一の医療機関である共同診療所は、敵の側からも「反原発運動の拠点」と位置づけられています。帰還強制攻撃が激化する今、「内部被曝の危険性」「避難・保養の重要性」を訴える共同診療所は、ますます重要な存在となってきています。

福島の子どもの対象とした甲状腺検査が「2巡目」へと突入しました。「1巡目」で異常が見つからなかった4人の子どもの新たに異常が発見され、甲状腺がんの子どもの疑いも含めて113人となりました。しかし、検査を行う福島県民健康調査検討委員会は「小児甲状腺がんの増加は原発事故とは関係ない」という主張を今も繰り返しています。安倍政権の再稼働政策に加担する検討委員会への怒り、それに異を唱える共同診療所への期待が高まっています。

福島第一・第二原発で、作業員の労災死亡事故が相次いでいます。第一原発では、19日に地

上タンク内に落下した作業員が20日に死亡。第二原発では、20日に作業員が点検用器具に頭を挟まれ死亡しました。労災事故の発生件数が急増しています。19日の事故を受けて原子力規制委員会の田中俊一委員長は「排出濃度以下になった水を捨てずにタンクを増設する中で事故が起きた。世論に迎合して人の命をなくすのは元も子もない。東電には覚悟が足りない」と発言しました。「漁業者の反対を無視して汚染水を海に流してしまえ」というこの発言を許すわけにはいきません！ 原発事故が収束していないことは明らかです。福島の実状を切り捨て、労働者を被曝させ、命に責任をとらない、このような中での原発再稼働を絶対に阻止しよう！

JR常磐線竜田駅から原ノ町駅間の代行バスの運行が、1月31日から始まりました。JR水戸支社は、バスが国道6号線を通ること、乗務員が線量計を携帯して乗ること、1回の通行で1.2マイクロシーベルトの被曝をすることを平然と告知しています。「被曝は当然」と言わんばかりに乗客・労働者に被曝を強制するJR資本こそ、福島圧殺攻撃の最先兵です。

◆労働組合と学生自治会の力で再稼働を阻止しよう！

以上のような福島圧殺攻撃をうち破り、全原発を廃炉にする力は、労働組合・学生自治会の団結と行動にあります。動労水戸やJR郡山工場の闘いはそれを示してきました。被曝との対決は、原発政策を進める安倍政権との闘いです。「原発には反対するが被曝には言及しない」日本共産党系の労働組合は、あきらめを強制する最悪の役割を担っています。それに対して動労水戸の被曝労働拒否の闘いは避難者を獲得し、昨年の9・11に代表される郡山工場の外注化反対の闘いは工場と地域の労働者の獲得へとつながりました。学生の闘いでも昨年は、辺野古新基地建設絶対反対を訴える沖縄大学学生自治会の再建や京都大全学自治会同学会の公安警察摘発・追放が勝ちとられました。学生の団結に依拠し、国家権力・資本と絶対非和解で闘う学生自治会が絶対に必要です。特に、福島大でそうした自治会の建設が求められています。「革命の根拠地」である福島では、支配階級や体制内勢力からかけられる攻撃も激しく、学生が立ち上がるためには学生自治会という団結体が不可欠です。絶対反対を貫いて闘う全学連に多くの福大生が注目していることが、1月21日の福大キャンパス集会で分かりました。それを団結へと変え、福島大学学生自治会の建設を勝ちとろう。

◆3・11大結集から4月新歓→安保国会粉碎闘争へ！

安倍政権は、「7・1閣議決定」や秘密保護法制定で侵略戦争へと突き進む構えです。安倍が46もの大企業幹部を引き連れて中東を歴訪している最中に起きた今回の「人質事件」は、「イスラム国壊滅を支持して2億ドルを拠出する」という安倍の発言が引き起こしたものです。安倍政権が中東での参戦を狙っていることは、アメリカのイラク・シリア空爆に「有志連合」として参加していることから明らかです。

安倍政権を打倒し、戦争を止めるために、全国の労働者・学生は団結しよう。今年の3・11反原発福島行動は、原発再稼働を強行し核武装を狙う日本帝国主義との大決戦です。郡山現地で3・11闘争をうち抜き、全国大学での4月新歓と5～6月の安保国会粉碎決戦へ攻めのぼろう！ 3月11日、全国の闘う学友は郡山へと結集しよう！（了）